

国本小学校



子どもたち一人ひとりの個性を尊重する少人数制教育で、豊かな人間性と確かな学力を育む国本小学校。近年は、「主体性」「自己決定行動力」「共生力」といった「国際コミュニケーション力」を身につける独自の英語カリキュラムを展開し、ICTの活用やSDGsプログラムなどとともに、未来志向の教育に取り組んでいます。

「国際コミュニケーション力」を軸に 未来の社会で活躍できる力を養う

小学生の英語教育だから さまざまな力が大きく伸びる

本校は、創立者の有木春来先生の「子どもたちの成長の根幹は心の教育、情操教育にある」という教えをもとに、1クラス25名の少人数制で、児童一人ひとりに向き合った教育に長年取り組んできました。また、定評ある英語教育や国語教育をはじめとするきめこまやかな指導で、確かな学力を築き、希望する中学校

への進学を後押ししてきました。

さらに、Society 5.0と呼ばれる、AIやIoTといった最先端の情報技術や科学技術を活用して課題を解決していく社会の到来に向け、ICT教育やSTEAM (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics) 教育、SDGsプログラムへの取り組みと、グローバル社会で活躍するための「国際コミュニケーション力」の獲得にも努めています。

2016年からは、英語教育を中心とした「国際コミュニケーション力」の育成に取り組んでいます。英語そのものは一つの言語であり、コミュニケーションのためのツールです。「聞く」「話す」「読む」「書く」といった英語の4技能を総合的に高めることは、例えば英検合格には欠かせません。ただ、本校の目指す「国際コミュニケーション力」とは、単なる英語力よりも一回り大きい概念で、英語を学ぶ過程で育まれる「主体性」「自己決

定行動力」「共生力」というグローバル社会で生き抜くために必要な力を意味します。

なぜ英語教育によってこうした力が養われるのか。さまざまな要因がありますが、表現力豊かでフレンドリーなネイティブ教員の影響はとても大きいと考えられます。1年生から始まる本校の英語の授業は、ネイティブ教員1名と日本人教員2名の3名が協力して行うチームティーチングで展開。子どもたちは日本人教員の丁寧なサポートを受けつつ、ネイティブ教員からは発音や抑揚だけでなく、表情、身振り手振りといったボディランゲージも交えた、「伝えるための英語表現」を学んでいます。

国語力を基礎とした英語教育と 英語でのプログラミング教育

本校の英語教育は、その基礎に国語教育を据えています。「聞く」「話す」「読

む」「書く」英語の4技能を発揮するには、まず日本語での読解力や文章構成力、表現力が必須だからです。

日本人の子どもたちは、十分な英語力を持っていても、英語での読み書きや討論に苦勞するケースがよくあります。その理由は、母語である日本語での読み書きする力や考える力が十分に養われないうちに英語を話す環境に入れたからで、補習として国語の勉強を取り入れれば、子どもたちの英語での表現力も向上します。

一方、プログラミング教育では、英語力とプログラミングスキルの向上を図るため、英語科の教員によるオールイングリッシュでの授業も行っています。プログラミング言語が英語をもとにしていることや、直感的な操作も多いため、子どもたちも比較的スムーズに英語での授業に馴染んでいます。

オーストラリア海外英語研修で 英語学習意欲が高まる

授業で培った国際コミュニケーション力を大いに伸ばすことができるのが、夏休み期間中に3年生以上の希望者を対象に実施するオーストラリア海外英語研修です。現地でホームステイをしながら、英会話スクールに通って生きた英語を学ぶほか、地元の小学校を訪問して同じ年の子どもたちとも交流します。前校長の小林はオーストラリアの日本人学校に3年間赴任していたため、信頼できるホストファミリーや現地の小学校ともつながりがあり、本校の児童に最適なプログラムを作り上げています。



約1週間の滞在ですが、実際に英語を母語とする国での生活を体験することで、子どもたちは「英語を話せるようになりたい」「海外の子どもたちと友達になりたい」「いろいろな国に行ってみたい」といったさまざまな夢を持つようになり、英語を学ぶ意欲が一段と高まります。また、オーストラリアの雄大な自然環境を目の当たりにし、異文化に触れることが、子どもたちには非常によい経験になっているようで、グローバルな感覚を身につける第一歩となっています。

この海外英語研修ですが、小学校で海外研修を取り入れている学校は減多にないため、保護者の方も「小学生にはまだ早いのでは」と思われていたのか、実施初年度の参加者は5名のみでした。ただ、参加した児童やその保護者からの評判はよく、2年目、3年目と少しずつ増えていき、手応えをつかんだところで残念ながらコロナ禍によって一時中断。3年ぶりの再開となった2024年度の募集には、なんと60名もの応募がありました。コロナ禍で海外渡航への心理的なハードルが上がっているのではないかと心配があったのですが、それ以上に保護者の方々に、この試みを評価していただけたことに感謝しています。

今年度も、現地での子どもたちの声や帰国後の保護者の方の声を参考に、今後、より充実したプログラムへとブラッシュアップしています。

できないことを できるようにするのが 教育

「英語の国本」という評価が定着したためか、学校説明会などで「英語の授業についていけるか心配です」や「入学前から英会話スクールに通ってなくても大丈夫ですか?」といったご相談をよく受けるように



なりました。答えは「まったく心配いりません」の一言です。英語はもちろん、環境学習や行事など、本校の取り組みに興味を持ち、本校で学びたいという意欲のある子どもたちであれば、ぜひ国本小学校にいらしてください。

入学前になんでもできる子どもはいません。誰でも、得意なことや苦手なことがあります。私たちは、そうした子どもたち一人ひとりと向き合い、できないことをできるように、教え、導き、支えていきます。保護者の方には、学校は子どもたちが日々成長していく場であり、私たち教職員はそれを全力でサポートする役割を担っていることを理解していただき、どうか安心して、そして期待して、子どもたちを送り出してください。

